

# 中学校第2学年国語科学習指導案

**単元名** 立場と根拠を明確にして書こう

**教材名** 「立場と根拠を明確にして書こう 意見文を書く」(光村図書「国語2」)

## 1 単元について

佐賀県の中学校第2学年の生徒の実態として、平成24年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、「書くこと」と「読むこと」の領域に課題が見られた。具体的には、「書くこと」領域では、「資料から必要な情報を取り出し、伝えたいことを明確にして書く」ことに、「読むこと」領域では、「展開をおさえ正確に理解し、ものの見方をとらえる」ことに課題が見られた。年間指導計画の立案や、単元構想に当たっては、以上のことに配慮し、日々の授業実践においても念頭に置いて指導に当たりたいと考えている。

本単元では、書くことの力を身に付けさせるために、学習指導要領「B書くこと」の(2)に位置付けられている言語活動例の「イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと」を取り入れた。単元を貫く言語活動に取り組むことで、生徒の主体的な学習活動が展開され、活動することによって知識・技能が習得できるように指導したい。

自分の意見を述べるときは、立場を明らかにする必要がある。また、賛成か反対かなど、自分の立場を決め、それを支える明確な根拠が必要になる。そこで、作品モデルを参考にしたり、ワークシートで練習をしたりしながら、構成を工夫して意見文を書く活動に取り組ませる。

指導に当たっては、学習計画表を活用して、課題設定、取材、選材、構成、記述、推敲、相互評価といった一連の学習活動に、見通しをもって取り組ませたい。次に、授業の各場面では、比べ読みやモデルの提示、練習学習等を通して意見文の書き方を段階的に学びとらせたい。また、学習形態についても、個人からグループ、学級全体へと広げ、学び合い活動が有効に働くように指導したい。さらに、身に付けている能力が十分でない生徒に対するスモールステップでの指導・支援についても随時行えるようなワークシートを準備し、適宜活用したいと考える。

意見文の題材としては、学年の系統を考え、身近な学校生活だけでなく社会生活にも目を向けるような課題を設定し、資源問題や環境問題を考えさせるきっかけとするとともに、友達の意見文を読み合うことで新たな視点に気づき、自分自身の考えを深化・補充していくような学習活動に取り組ませていくことにする。

## 2 単元の目標

- (1) 自分の立場や意見が相手に伝わるように、根拠を明らかにして意見文を書こうとする。
- (2) 自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を吟味し、具体例や予想される反論などを意識して文章を書くことができる。
- (3) 書いた文章を互いに読み合い、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。

## 3 単元の言語活動

多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書く。(言語活動例B(2)イ)

#### 4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
①自分の立場や意見が相手に伝わるように、根拠を明らかにして意見文を書こうとしている。	①自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を吟味し、具体例や予想される反論などの構成を考えて文章を書いている。(イ) ②書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にしている。(エ)	①相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。(イ(ウ))

#### 5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	1 「お願い作文」を比べ読みし、相手を納得させるためにはどのような工夫が必要かを考える。  2 学習課題「立場と根拠を明確にして意見文を書こう」を設定する。	○根拠が客観的事実や体験に基づくものであれば、説得力が増すことに気付かせる。  ○学習計画表を基に、学習の目標と流れを確認させる。	[言語についての知識・理解・技能] ① ワークシート①
二	2	3 「中学生が使う辞書は、紙の辞書がよい」という意見を述べている意見文を比べ読みし、意見を支える根拠の強さの違いを吟味する。  4 「中学生が使う辞書は、紙の辞書がよい」と「中学生が使う辞書は、電子辞書がよい」という2つの意見に対して、どちらに賛成か立場を決めるために、それぞれのよい点と問題点を挙げて整理し、より説得力のある根拠を支えとして意見をもつことを学ぶ。	○それぞれの意見文の、よい点と問題点を挙げさせることで、意見をより強く支える根拠とはどういうものかに気付かせる。  ○紙の辞書と電子辞書のそれぞれのよい点と問題点をできるだけたくさん列挙させる。  ○列挙したよい点や問題点から、自分の意見を支える根拠として、より説得力のあるものを取捨選択させる。	[国語への関心・意欲・態度] ① 観察、ワークシート②

	5	自分の意見に対する反対意見を想定して、それに対する意見を考える。	○意見を述べる場合、反論を想定することで、自分の意見をより明確にすることができることに気付かせる。	
	3	6 「中学生に制服は必要だ」という意見に対して自分はどうか考えるか、根拠を列挙し、論理の展開の型に従って書く。	○絞り込んだ根拠をどのような順序で述べるかを考えさせる。 ○論理の展開には型があり、今回は双括式で書くことを理解させる。 ○意見を支える根拠を、論理の展開を考えて書くことを確認させる。	[書く能力] ① ワークシート③
	4	7 テーマ一覧から、自分が書く意見文の課題を決め、根拠をできるだけたくさん挙げる。  8 自分の意見を支える根拠を選び、順序を工夫して論理の展開の型に当てはめる。	○前時までに学習したことを基にして書くように指示する。  ○列挙した根拠の客観性を吟味させ、自分の意見を支える根拠、予想される反論、それに対する意見等に関連をもたせることに留意させる。	[国語への関心・意欲・態度] ① 観察, ワークシート④
	5	9 論理の展開の型を基に、意見文の下書きをする。  10 推敲の観点に従って推敲をする。	○構成を考えて、600字程度の文章になるように下書きをさせる。 ○観点を基に、意見文を読み合い、よい点や改善点などを話し合わせる。	[書く能力] ② 意見文の下書き, 振り返りシート
三	6	11 清書をして意見文を読み合う。  12 単元の学習を振り返り、身に付けた力やその力を活用できそうな場面について考える。	○付箋の記述を基に、自分の書いた意見文を読み返させ、身に付いた力を実感させる。  ○単元の学習について指導者の評価を伝え、生徒が新しい課題や今後の学習の展望がもてるようにする。	[書く能力] ① 意見文の清書  [書く能力] ② 意見文の下書き, 意見文の清書, 振り返りシート

6-1 1/6時の指導計画

(1) 目 標

相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解することができる。

(2) 展 開 ※表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 文章は書き方によって相手を納得させる度合いが違うことを知り、意見文を書く学習に関心をもつ。 2 教科書の「立場と根拠を明確にして書こう」を読み、単元の目標を確かめる。 3 本時の目標を確かめる。	ワークシート①  学習計画表	◆「お願い作文」AとBを教材提示装置で投影し、どちらも納得できたかワークシート①に書かせる。  ◆学習計画表を教材提示装置で投影し、学習の見通しをもたせる。  ○本時の目標を斉読によって確認させる。	
相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを知ろう				
	4 「お願い作文」を比べ読みし、相手を納得させるためにはどのような工夫が必要かを考える。 [手順] 1) 気が付いたことについて学級で発言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的な事実に基づくことが書かれているから。</li> <li>・体験に基づくことが書かれているから。</li> <li>・調べたことが書いてあるから。</li> </ul> </div> 2) ワークシート①の問いに取り組む。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人</span> 3) 考えたことをグループで確かめ合う。	ワークシート①	○「お願い作文」Aの方に、より納得すると感じる理由を考えさせる。  ○既習事項を確認し、共有させる。 ◆「お願い作文」を電子黒板で提示し、生徒の発言に該当する部分をマーキングをするなどして注目させる。  ○「双括弧」「反論」など単元の学習でキーワードとなる語句については、教科書で確認をさせる。	◇学習への取組が滞っている生徒には、教科書の該当箇所を指し示しながら、ワークシート①の「比べる視点・気が付いたこと」の内容を対照させ、文中の空欄に入る語句を考えるように促す。

展 開	<p>4) 「相手を納得させる文章」の条件についてグループで意見を出し合い、5つにまとめる。</p> <p>5) 学級で発表し合い、「相手を納得させる文章」の条件を5つにまとめる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一斉</span></p>	<p>画用紙</p>	<p>○グループの話合いで5つにまとめたものを画用紙に書かせる。</p> <p>◆画用紙に書いた5つの条件を教材提示装置で投影させ、発表を分かりやすくさせる。</p> <p>○体験に基づくこと、本、新聞、雑誌、インターネットなどを利用して調べたこと、人に聞いたり、調査、観察、実験などを行ったりしたことなどを引用すると、意見を相手に納得させやすいことに気付かせる。</p>	
	<p>5 自分の意見を相手に伝えるための「意見文」とはどのような形態や展開の文章かを理解する。</p>	<p>ワークシート①</p>	<p>○「意見文」を識別させる問題に取り組みさせることで、意見文の形態や展開についての理解を確かにさせる。</p>	<p>【言①】 相手や目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。</p> <p>【ワークシート①】</p>
	<p>6 学習課題「立場と根拠を明確にして意見文を書こう」を設定する。</p>	<p>テーマ一覧 学習計画表 学習プリント「書くこと」④ 「目的や意図に応じて書く（意見文）」</p>	<p>○テーマ一覧から意見文を書くことを知らせ、根拠の収集について見通しをもたせる。</p> <p>○言語活動を通して身に付く力を予想させ、学習計画表の「単元で身に付けたい力」に書き込ませる。</p> <p>○学習プリントを活用して既習事項を確認し、単元の学習に備えるよう促す。</p>	<p>「相手を納得させる文章」の条件と文章を照らし合わせて、該当する部分にマーキングさせるなどしてみせて、判断の手掛かりとさせる。</p>

<p>まとめ</p>	<p>7 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。また、次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標に応じて学習内容がどうであったかを考えて振り返るように促す。</li> <li>○板書を参考にして学んだことを書かせる。</li> <li>○次時は、「中学生が使う辞書は『紙の辞書』がよいか『電子辞書』がよいか」をテーマに、意見文の書き方を学ぶことを知らせる。</li> </ul>	
------------	---	--------------	---	--

6-2 2/6時の指導計画

(1) 目 標

自分の立場や意見が相手に伝わるように、根拠を明らかにして意見文を書こうとする。

(2) 展 開

※表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇ <b>形成的評価による個別指導</b> Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表 ワークシ ート①	○自分の意見を相手に伝えるためには、体験に基づくこと、本、新聞、雑誌、インターネットなどを利用して調べたこと、人に聞いたり、調査、観察、実験などを行ったりしたことなどを根拠にするとよいことを思い出させる。 ○本時の目標を斉読によって確認させる。	
自分の立場や意見が相手に伝わるように、根拠を明らかにして意見文を書こう				
展 開	2 「紙の辞書と電子辞書では、紙の辞書を使う方がよい」のテーマについて考え、意見の持ち方を学ぶ。 〔手順〕 1) 賛成の立場で書かれた意見文A～Cを読み比べて、最も納得できるものを選ぶ。賛成の根拠を挙げる。 2) 文章に即して具体的な理由を考えて書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">①双括弧で書かれていて立場が明確である。 ②根拠が「第一に」「第二に」という言葉を使って分かりやすく説明されている。 ③根拠が、本質的なことから物質的なことの順に書かれている。 など</div>	ワークシ ート②	◆電子黒板にテーマを提示し、意識付けをさせる。 ○紙の辞書を使う方がよいという立場で考えさせる。 ○前時の学習内容を想起しながら判断するように促す。 ◆前時にまとめた「相手を納得させる文章」の条件を教材提示装置で投影する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「相手を納得させる文章」の条件 1 意見や立場が明確である。 2 根拠を具体的に示す。 3 構成や展開を分かりやすくする。 4 反論に対する意見を述べて主張を補強する。 5 相手の心情を推し量って内容や表現を工夫する。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【関①】自分の立場や意見が相手に伝わるように、根拠を明らかにして意見文を書こうとしている。【観察】 【ワークシート②】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分の立場や意見を決めるために根拠を列挙し、その中から自分の意見を支える根拠を選び、反論を考えるなどして意見文を書こうとしている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ペアやグループで学習に取り組みさせて考えを促し自分で意見文を書こうという意欲をもたせる。</div>

展 開	<p>3) 賛成の根拠を挙げる。</p> <div data-bbox="252 203 579 398" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き込みができる。</li> <li>・付箋を貼ることができる。</li> <li>・複数の意味がある言葉も一目で見渡すことができる。</li> <li>・電子辞書より値段が安い。 など</li> </ul> </div> <p>4) 根拠の種類を考える。</p> <div data-bbox="252 477 579 633" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>根拠の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験 ・事実</li> <li>・資料の引用</li> <li>・データ(調査, 観察, 実験などの結果) など</li> </ul> </div> <p>5) 賛成の根拠を吟味し、自分の意見を支える根拠として説得力のある根拠を選ぶ。</p> <p>6) 予想される反論について考える。</p> <div data-bbox="260 931 571 1126" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子辞書は持ち運びに便利で、いつでも言葉を調べることができるのでよい。</li> <li>・いくつかの辞書を比較することができるのでよい。 など</li> </ul> </div> <p>7) 反論に対する意見を考える。</p> <div data-bbox="260 1245 571 1379" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電池が切れる。</li> <li>・落下などの衝撃に弱い。</li> <li>・高価である。 など</li> </ul> </div>		<p>◇根拠が思い付かない生徒には、隣の人や、グループで相談させる。</p> <p>○体験に基づくこと、本、新聞、雑誌、インターネットなどを利用して調べたこと、人に聞いたり、調査、観察、実験などを行ったりしたことなどに分類し、より説得力のあるものを取捨選択させる。</p> <p>◆電子黒板に紙の辞書のよい点と問題点、電子辞書のよい点と問題点を提示し、比較して考えやすいようにする。</p> <p>○意見を述べる場合、反論を想定することで、自分の意見をより明確にすることができることを理解させる。</p>	
まとめ	<p>3 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。また、次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	学習計画表	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったかを考えて振り返るように促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。</p> <p>○次時は、「中学生に制服は必要だ」というテーマについて根拠を列挙し、論理の展開の型に従って書くこと確認する。</p>	

6-3 3/6時の指導計画

(1) 目 標

自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を吟味し、具体例や予想される反論などの構成を工夫して文章を書くことができる。

(2) 展 開 ※本時における最終的な評価は、授業後に回収したワークシート③によって行う。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表 ワーク シート②	○前時に学んだことを2～ 3名に発表させる。 ○本時の目標を斉読のよっ て確認させる。	
	自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を吟味し、具体例や予想される反論などの構成を工夫して文章を書こう			
展 開	2 「中学生に制服は必要だ」という意見に対して自分は どう考えるか、根拠を列挙 して考える。  〔手順〕 1) 思い付く根拠を発表 する。  2) 賛成の根拠を考える。  3) 反対の根拠を考える。  4) 自分の立場を決め、 意見を支える根拠とし て最も説得力のあるも のを選ぶ。  5) 反論と反論に対する 意見を考えて主張を補 強する。	ワークシ ート③	○ワークシート②を参考 にして、同じように根拠を 列挙することを知らせ る。  ○数名の生徒に発表させて 考えを促す。  ○賛成の根拠と、反対の根 拠を対応させて考えるこ とで、比較の観点を同じ にしてまとまりのある意 見を作ることができるこ とに気付かせる。  ○書き出したことの中か ら、自分の意見を支える 根拠として、より説得力 のあるものを吟味させ る。  ○自分の根拠から、予想さ れる反論を考えさせる。	◇根拠を選ぶのに時間の掛 かっている生徒には、ワ ークシート①「相手を納 得させる文章」の条件等 を参照させて、自分が最 も納得できる根拠を選ぶ ように促す。  ◇活動が滞っている生徒に は、根拠と反論と反論に 対する意見に「共通性」

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開</p>	<p>3 論理の展開の型に従って意見文の構成表を書く。</p> <p>[手順]</p> <p>1) 「PREP方式」について知る。</p> <p>2) 「PREP方式」で自分の意見を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「PREP方式」</p> <p>①私は、～と考える。 POINT(意見)</p> <p>②なぜなら～だからだ。 REASON(根拠)</p> <p>③例えば、～(また、～) EXAMPLE(例)</p> <p>④以上のことから、 私は～と考える。 POINT(意見)</p> </div> <p>3) 読み返して分かりやすく書けているかどうか考え、それぞれの項目について書けていたら○を付ける。</p>	<p>学習の手引き「読むこと」⑤</p> <p>「文章の構成に強くなるう！」</p> <p>ワークシート③</p>	<p>○学習の手引きを参照させ頭括式、双括式、尾括式について確認し、「PREP方式」が双括式の一つの論理の展開の型であることを知らせる。</p> <p>◆視覚的にとらえやすいように、論理の展開の型を電子黒板に提示する。</p> <p>○論理の展開にはいくつかの型があり、型に従って書けばよいことを確認する。</p> <p>○吟味した根拠を、どのような順序で述べるか考えさせる。</p> <p>○根拠と反論は、比較できる観点として「共通性」をもたせることで、まとまりのある意見文とすることができるということを理解させる。</p>	<p>をもたせて主張を補強するように、指導者が例を示して考えを促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【書①】自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を吟味し、具体例や予想される反論などの構成を考えて文章を書いている。</p> <p>【ワークシート③】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-style: dashed; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ワークシート③の構成表に意見、根拠、根拠を支える具体例、予想される反論、反論に対する意見を全て書いている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p> <p>これまでの学習をなぞる形で意見文の書き方を想起させ、対話しながら考えを明らかにさせて書かせる。</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p>4 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。また、次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったかを考えて振り返るよう促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。</p> <p>○次時は、自分でテーマを決めて意見文を書くことを知らせる</p>	

6-4 4/6時の指導計画

(1) 目 標

自分の立場や意見が相手に伝わるように、根拠を明らかにして意見文を書こうとする。

(2) 展 開

※表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表	○前時に学んだことを2～ 3名に発表させる。  ◆前時の学習活動において 「十分満足できる」状況 (A)にあった生徒の記 述を紹介し、根拠と反論 は比較できる観点として 「共通性」をもたせるこ とでまとまりのある意見 文とすることができるこ とについて理解を深めさ せる。  ○本時の目標を斉読によっ て確認させる。	
	自分の立場や意見が相手に伝わるように、根拠を明らかにして意見文を書こう			
展 開	2 教科書の「意見文の例」 を読み、振り返りシート の《推敲の観点》と照らし合 わせて、意見文の書き方を 確かめる。	振り返り シート ワークシ ート④	◆教科書P175にある「意見 文の例」を電子黒板に提 示し、振り返りシート の《推敲の観点》と照らし 合わせて「意見文の例」 にマーキングをする。	
	3 テーマを決めて、根拠を 吟味し、具体例や予想され る反論などの構成を工夫す る。  〔手順〕 1) 手順を確かめる。  2) テーマを決める。	ワークシ ート④  テーマ一 覧	○これまでの学習を想起さ せながら確かめさせる。  ○テーマ一覧から、自分が 書きやすいと思うテーマ を選ばせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【関①】自分の立場や意見 が相手に伝わるよう に、根拠を明らかにして 意見文を書こうとしてい る。【観察】 【ワークシート④】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の立場や意見を決め るために根拠を列挙し、そ の中から自分の意見を支 える根拠を選び、反論を考</p> </div>

展 開	<p>3) 賛成と反対のそれぞれの根拠を列挙して立場を決める。</p> <p>4) 根拠を吟味して明らかにする。</p> <p>5) 予想される反論とそれに対する意見を考える。</p> <p>6) 構成を考えて下書きの見当を付ける。</p>	<p>ワークシート④</p> <p>原稿用紙 学習の手引き「読むこと」⑤ 「文章の構成に強くなるう！」</p>	<p>○前時までの学習で根拠を列挙して立場を決めたことを想起させる。</p> <p>○採用する根拠に順番を付けさせる。</p> <p>○根拠と予想される反論は、関連のあるものにすることを留意させる。</p> <p>○600字程度の意見文を書くためには、構成表の6つの項目を何字程度で書けばよいのか見当を付けさせる。</p>	<p>るなどして意見文を書こうとしている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p> <p>ペアやグループで学習に取り組みさせて考えを促し、自分で意見文を書こうという意欲をもたせる。</p>
	<p>4 構成表を読み返し、分かりやすい構成になっているか考える。 〔手順〕</p> <p>1) 自分で読み返す。</p> <p>2) ペアで交換して読み合う。</p> <p>3) 気が付いたことをアドバイスし合う。</p>	<p>ワークシート④</p>	<p>○根拠を述べる順番や、予想される反論と意見との関連などについて分かりやすくなっているかどうか気を付けて読み返すよう注意を促す。</p>	
まとめ	<p>5 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。また、次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったかを考えて振り返るように促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。</p> <p>○次時は、意見文を下書きし、互いに推敲し合うことを確認する。</p>	

6-5 5/6時の指導計画

(1) 目 標

書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。

(2) 展 開 ※本時における最終的な評価は、授業後に回収した振り返りシート等によって行う。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表	○前時に学んだことを2～ 3名に発表させる。 ○本時の目標を斉読によっ て確認させる。	
<p>書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく 分かりやすい文章にしよう</p>				
	<p>2 構成表を基に、それぞれの項目を何字程度で書くか見当を付けて意見文の下書きをする。</p> <p>3 グループで《推敲の観点》を基に意見文を読み合う。 〔手順〕</p> <p>1) 語句や文の使い方、段落どうしの関係などに注意しながら自分で読み返す。</p> <p>2) グループで推敲の観点を基に意見文を読み、気が付いたことを付箋に書いて作品に貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よい点…青色</li> <li>・改善点…ピンク色</li> </ul> <p>3) グループの作品について、質問をしたり意見を述べたりして、推敲を深める。</p>	<p>ワークシート④ 原稿用紙</p> <p>意見文の下書き 振り返りシート 付箋 学習の手引き「書くこと」③ 「推敲に強くなる！」</p>	<p>○構成表を基に、1文35字から40字程度、全体で600字程度の意見文を書かせる。</p> <p>○原稿用紙の使い方によって下書きを書かせる。</p> <p>◆《推敲の観点》を電子黒板で提示しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《推敲の観点》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 立場や意見は明確になっているか。</li> <li>2 根拠は具体的に書かれているか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・納得のいくものか。</li> <li>・他に適切なものはないか。</li> <li>・並べ方は適切か。</li> </ul> </li> <li>3 構成や展開は適切か。</li> <li>4 予想される反論とそれに対する意見が書かれているか。</li> <li>5 根拠と予想される反論とに「共通性」があり、意見文にまとまりがあるか。</li> </ol> </div>	<p>◇活動が滞っている生徒には、《推敲の観点》のいくつかについて具体例を示して活動を促す。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展 開</p>	<p>4 グループからの意見を基に、意見文を読み返す。</p> <p>[手順]</p> <p>1) 付箋を整理しながら推敲を深める。</p> <p>2) 表現を書き改めるところを振り返りシートに書く。</p> <p>3) 意見文の下書きに加除修正の書き込みをする。</p>	<p>意見文の下書き 振り返りシート</p>	<p>○グループでの話し合いと照合せながら付箋に書かれた内容を整理させる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【書②】書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にしている。【意見文の下書き】 【振り返りシート】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>振り返りシートに表現を書き改めるところを書いて意見文を読みやすく分かりやすい文章にする修正をしている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>指導者が気付いた改善点について指摘し、例を示して加除修正をさせたり、改善をした方がよい部分が該当する《推敲の観点》を例示して改善点がないか考えたりさせる。</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ま と め</p>	<p>5 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。また、次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったかを考えて振り返るように促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。</p> <p>○次時は、学級で意見文を読み合うことを確認する。</p>	

6-5 6/6時の指導計画

(1) 目標

- ・ 自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を吟味し、具体例や予想される反論などの構成を工夫して文章を書くことができる。
- ・ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすることができる。

(2) 展開 ※本時における最終的な評価は、授業後に回収した意見文の清書や振り返りシート等によって行う。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画表 意見文の下書き 振り返りシート	○前時に学んだことを2～3名に発表させる。 ◆前時の学習活動において「十分満足できる」状況(A)にあった生徒の記述を紹介し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすることについて理解を深めさせる。 ○本時の目標を斉読によって確認させる。	
立場と根拠を明確にして意見文を清書し、読み合って意見を交流しよう				
展 開	2 意見文の下書きと振り返りシートを基に、意見文の清書をする。  3 完成した意見文を学級で読み合う。  〔手順〕 1) 教室の端の列から席の後ろの人へ意見文を手回しし、できるだけ多くの意見文を読み合うことを確認する。	意見文の下書き 振り返りシート 原稿用紙	○推敲をしたことを生かして清書をするように確認する。  ◆教材提示装置を使って、意見文に付箋を貼る様子を見せて、付箋の貼り方について確認をする。	

展 開	<p>2) 付箋の書き方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よい点…青色</li> <li>・改善点…ピンク色</li> <li>・内容についての感想や意見…黄色</li> </ul> <p>3) 読んだ意見文の中で、最も印象に残った作品とその理由について考える。</p> <p>4) 最も印象に残った作品について叙述を引用しながら学級に紹介する。</p> <p>4 単元の学習を振り返り、身に付けた力を考える。</p> <p>5 身に付けた力を活用できそうな場面について考える。</p>	交 流 シー ト 付 箋	<p>○グループで下書きを推敲したときに使った付箋の他に、意見そのものについてどのような考えをもったかを書く黄色の付箋を用意する。</p> <p>○立場や根拠が明らかで、構成に工夫が見られるといった意見文の書き方の優れているものだけでなく、ものの見方や考え方が広がるような発見をした作品などからも選ばせる。</p> <p>○数名の生徒に発表させる。</p> <p>○「立場と根拠を明確にして意見文を書こう」という学習課題に照らしてどうであったかを考えて感想を言わせる。</p> <p>○生徒が気付いていないことについては、生徒の作品のよい点を指し示したり、該当の学習場面での活動を指摘したりして指導者が具体的に評価する。</p>	<p>◇理由を書くのが滞っている生徒には、ワークシート①②等を参照させて、当てはまるよい点を選んで書くように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【書①】 自分の意見が効果的に伝わるように、根拠を吟味し、具体例や予想される反論などの構成を考えて文章を書いている。【意見文の清書】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>意見文の清書に意見、根拠、根拠を支える具体例、予想される反論、反論に対する意見を全て書いている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これまでの学習で用いたワークシート等を参照させ、書き方を確かめた上で、書かせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【書②】 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にしている。【意見文の下書き】 【意見文の清書】【振り返りシート】</p> </div>
--------	---	--------------------	--	---

展 開				<p>振り返りシートに表現を書き改めるところを書いて意見文を読みやすく分かりやすい文章にする修正をしている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p> <p>指導者が気付いた改善点について指摘し、例を示して加除修正をさせたり、改善をした方がよい部分が該当する《推敲の観点》を例示して改善点がないか考えたりさせる。</p>
ま と め	6 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。	学習計画表	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目標に応じて学習内容がどうであったかを考えて振り返るように促す。</li> <li>○板書を参考にして学んだことを書かせる。</li> <li>○単元の学習について指導者の評価を伝え、生徒が新しい課題や今後の学習の展望がもてるようにする。</li> </ul>	